

「2019 年台風 15 号・19 号 被災障がい者支援募金」を絶大に応援して下さる 「近畿ろうきん」関係者のみなさまへ

なぜ、こんなに自然災害が続くのでしょうか？ 1 都 12 県という広い地域に泥だらけの洪水が押し寄せました。いま水にまつわる自然災害が続けて起こっています。日常生活において水の大切さはいうまでもありません。人間だけではなく、すべての生きものは水がなければ生きていけません。でも泥水は恐ろしい。もし、わが家があつという間に泥水に覆われてしまったら……と想像するだけで、気持ちのやり場が見つかりません。

そんな時、長野のリンゴ農園に毎年の取引先から「汚れたり傷ついても味は変わらないから送ってください」との便り。農園の人たちはどれほど励まされたことでしょうか。このような一言でも、人間は立ち上げられるのです。それは人間だから。いま私たちは被災地の人々と励まし合いたいと思います。「助けてェ〜」の声に、できる限り応えていきたい。

いつものように人間集団「近畿ろうきん」関係者のみなさんは立ち上がってくださいました。それに応えて人間「ゆめ風基金」も頑張ります。いまや「近畿ろうきん」と「ゆめ風基金」は名コンビのバッテリー。もちろん「近畿ろうきん」はベテランの名キャッチャー、発足 25 年目の「ゆめ風基金」はその巧みなリードに応じて役割を懸命に努めます。

ゆめ風基金は、1995 年の阪神淡路大震災がきっかけで、何かにつけ後回しにされてしまった障がい者市民の災害時の体験から発足し、平常時にコツコツお金を蓄えておき、大災害が起きた時に集めたお金をいち早く届ける活動をしています。この活動が、今は亡きあの永六輔さんの眼にとまり、呼びかけ人代表を積極的に引き受けてくださって大きく飛躍的に広がりました。永さんは亡くなられる少し前、大親友のフォークソングのレジェンド小室等さんにバトンタッチされ、その思想は脈々と引き継がれています。

どうぞ、みなさまのお気持ちを「近畿ろうきん」と「ゆめ風基金」の名コンビに託してください。ゆめ風基金は、この 25 年間にいろんな分野のさまざまな人々からご支援をいただき、昨年、寄せていただいた総額が 10 億円を超えました。近畿ろうきんからは「サポートV」など 8,420 万円も含めて大いに貢献してもらっています。これら、いただいたお金のうち、ほぼ 5 億円が国内はもとより海外の自然災害で被災した障がい者にも活用されました（当初、海外まではとてもムリ。ところが……1つの国際化）。大いに喜ばれました。

なお、今回の支援活動は 15 号、19 号台風・記録的豪雨による広範な被害が対象です。ゆめ風事務所にも 24 ヶ所ほどの障がい者拠点から床上 1 m 以上の浸水も結構あってパソコンや車両が使えなくなり、また拠点が壊れて別の仮事務所で何とかヤリクリしています、との報告も届いているところです。